

小児看護学実習

目 的

子どもとその家族を理解し、健康の保持・増進に向けて、対象に応じた看護を実践できる能力を養う。

目 標

1. 小児各期の特徴を理解し、対象の成長・発達を促すための援助が実施できる。
2. 健康障害が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、対象に必要な援助を考えることができる。
3. 健康障害のある対象への健康回復に向けた援助が実施できる。
4. 子どもを一人の個として尊重した援助ができる。
5. 看護チームの一員として自覚と責任ある行動をとることができる。

内 容

対象	内容
健康な子ども	- 子どもの成長・発達の理解 - 身体的成長、運動機能の発達、心理・社会的発達 - 粗大運動・微細運動 - 知的機能 - コミュニケーション機能 - 情緒・社会的機能 - 生活行動の自立 - 食事 - 排泄 - 睡眠 - 衣服の着脱 - 清潔行動 - 遊びと発達段階の関係 - 遊びの発達 - 遊びと社会性の発達 - 成長・発達を考慮した生活の援助 - 発達段階に応じた日常生活援助 - 保育士の教育的関わり - 安全を守るための援助 - 施設における事故予防、安全対策 - 感染予防 - 保育所の役割や機能 - 保育目標、保育内容 - 保育事業（延長保育・一時預かり・子育て支援・地域活動など） - 保育所と保護者の連携の理解 - 子どもの健康状態の情報共有 - 保育活動の連絡・通信 - 会合や行事

対象	内容	対象選択の目安	
	看護のポイント	症状	疾患
健康障害のある子ども	- 対象の理解 - 形態的成長、機能的発達の観察と計測、身体発育の評価 - 精神・運動機能の発達の観察と評価 - 生育歴（出生状況、既往歴、予防接種状況など） - 家族の育児方針と育児行動 - 病態生理、検査、治療と健康段階 - 入院が対象に及ぼす影響 - 疾病や入院が子どもの成長・発達に及ぼす影響 - 疾病や入院に対する家族の身体的・精神的・社会的側面 - 子どもや家族への健康回復に向けた生活指導 - 子どもの症状や発達段階に応じた生活援助 - 環境の調整 - 食事 - 排泄 - 清潔 - 衣服の着脱 - 睡眠 - 遊び - 学習 - 事故防止に向けた援助 転倒、転落、窒息、誤嚥など - 診療に伴う援助技術 与薬、輸液管理、検体採取（採血・採尿）、吸入、腰椎穿刺・骨髄穿刺の介助 - 子どもの権利を尊重した関わり - 子どもの自発性や意志の尊重 - プライバシーの保護 - プレパレーション・ディストラクション - 保健医療福祉チームとの連携と看護者の役割の理解	不機嫌 発熱 発疹 嘔吐 下痢 便秘 咳嗽 呼吸困難 チアノーゼ 痙攣 黄疸 脱水 ……など	肺炎 気管支炎 気管支喘息 上気道炎 急性胃腸炎 中耳炎 髄膜炎 尿路感染 伝染性疾患 川崎病 てんかん 血液疾患 腎疾患 膠原病 糖尿病 先天性脳脊髄疾患 整形疾患 ……など

方 法

1. 実習開始前に、学内にてオリエンテーションを受ける。
2. 学内実習
 - A ねらい:成長・発達を考慮した日常生活援助や遊びに関する演習を通して、健康な子どものイメージ化を図る。
 - 1) 実習オリエンテーションを受ける。
 - 2) 絵本の読み聞かせと手遊びの発表を行う。
 - 3) 実習に臨むにあたり、日常生活援助の演習を行う。
 - B ねらい:シミュレーション演習を通して実習場面のイメージ化を図り、対象に応じた看護について学ぶ。
 - 1) 小児看護場面におけるシミュレーション演習
 - 2) 援助計画の評価・修正
 - C ねらい:小児看護に必要な知識と技術を習得し、臨地実習の準備性を高める。
 - 1) 小児看護に必要な看護技術
 - 2) 『子どもの安全を守る看護』のDVD視聴
3. 保育所実習
 - 1) オリエンテーションを受ける。
 - 2) 施設の活動に参加する。
 - 3) 行動記録を提出する。
 - 4) 実習終了後は、「発達段階に応じた生活援助の実際から学んだこと」について実習レポート用紙に記載する。
4. 病棟実習
 - 1) 実習開始前に、病院オリエンテーションを受ける。
 - 2) 病棟オリエンテーションを受ける。
 - 3) 援助は立案した援助計画に基づいて実践する。
 - 4) テーマカンファレンスを開催する。
 - 5) 実習終了後は、「健康を障害された子どもと家族への看護」について実習レポート用紙に記載する。

小児看護学実習評価表

《釧路赤十字病院 4 B 病棟》 実習期間 月 日～ 月 日 番 学生氏名

		A	B	C	D
1	子どもの個別的な形態的成長と機能的発達、精神運動機能の発達、発育歴が、一般の発達段階をふまえて述べられる。	4	3	2	0
2	子どもの健康障害について病態生理・検査・治療などの事実を整理し、解釈を加えながら述べられる。	4	3	2	0
3	健康障害が日常生活行動に及ぼす影響について述べられる。	4	3	2	0
4	健康障害が子どものニーズに及ぼす影響について発達段階をふまえながらアセスメントできる。	4	3	2	0
5	子どもの発達段階や心理的特徴を理解し、対象に応じた関わりやコミュニケーションが工夫できる。	4	3	2	0
6	入院を余儀なくされた子どもの心理とその反応について述べられる。	4	3	2	0
7	家族の身体的・社会的影響、役割変化について述べられる。	4	3	2	0
8	家族の子どもに対する思いや健康障害に関する不安について述べられる。	4	3	2	0
9	子どもや家族の理解度に応じたプレパレーション・ディストラクションが実践できる。	4	3	2	0
10	安静度や疾患を考慮し、子どもに適した遊びができる。	4	3	2	0
11	子どもに応じて治療や処置を安全・安楽に行うための援助ができる。	4	3	2	0
12	子どもの発達段階や行動から危険を予測し、安全に配慮できる。	4	3	2	0
13	起きている事象とその因果関係及び今後の成り行きについて整理できる。	4	3	2	0
14	援助計画に基づいて実施できる。	4	3	2	0
15	援助の結果を子どもの健康障害や発達段階をふまえて評価し、計画を修正できる。	4	3	2	0
<評価尺度> A: 少しの指導でできた B: 指導を受けながらできた C: 繰り返し指導を受けて少しできた D: 繰り返し指導を受けてもできなかった		合計	60		

《保育所》

	項 目	評 定			
1	運動機能・心理・社会的発達から生活行動の自立の程度が述べられる。	3	2	1	0
2	遊びと発達段階の関係が述べられる。	3	2	1	0
3	発達段階に応じた日常生活援助の方法が述べられる。	3	2	1	0
4	事故予防・安全対策や感染予防の実際について述べられる。	3	2	1	0
5	保育所と保護者の連携について述べられる。	3	2	1	0
<評価尺度> A: よくできた B: できた C: 少しできた D: できなかった		合計	15		

《態度》

項目			評価のポイント	A	B	C	D		
前に踏み出す力	1	主体性	・ 指示を待つのではなく自らやるべきことを見つけ、積極的に取り組める	4	3	2	1		
	2	実行力 働きかけ力	・ わからないことをそのままにせず、タイムリーに指導者や教員、スタッフ、実習メンバーなどに確認し、解決に向けて取り組むことができる ・ 患者によりよい援助を実施するために、指導者や教員、実習メンバーなどに働きかけることができる ・ 積極的に技術を習得できる	4	3	2	1		
考え抜く力	3	課題発見力 計画力 創造力	・ 実習を客観的に振り返り、自己の課題を述べるができる ・ 課題解決に向けた案を複数考え、それを遂行するための準備ができる ・ 実習全体および日々のスケジュールを常に把握し、優先順位を考えて行動できる ・ よりよい援助の方法を探求し、取り入れることができる	4	3	2	1		
チームで働く力	4	発信力 状況把握力	・ 優先順位を考慮し、簡潔明瞭に報告・連絡・相談ができる ・ 自分のできること、できないことを判断し対象、実習メンバー、実習指導者、教員、スタッフなどの状況を踏まえた行動ができる	3	2	1	0		
	5	傾聴力 柔軟性	・ 他者の意見や立場を尊重できる ・ 指導者や教員、実習メンバーからの意見や助言を最後まで聞き、相手の意見を正確に理解できる ・ 相手にとって話しやすい状況をつくり、相手の意見を引き出している	3	2	1	0		
	6	規律性 ストレスコントロール力	・ 様々な場面で良識やマナーの必要性を理解し、ルールを守ることができる ・ 周囲に迷惑をかけたとき、誠実に対応できる ・ チームの一員と対象への責任をもち、周囲の協力も得ながら心身の体調管理ができる	3	2	1	0		
	7	倫理性	・ 対象のプライバシーを守り、個人情報の保護に努めることができる ・ 適切な言葉遣いで、状況に応じた行動ができる ・ 対象を主体とした関わりになっているか常に考え行動できる	4	3	2	1	合計	/25

＜評定尺度＞

A：少しの指導でできた

C：繰り返し指導を受けながらできた

B：指導を受けてできた

D：繰り返し指導を受けて少しできた

実習指導責任者 _____

担当教員 _____

総合点